

ころがあるといへようか。

兎に角く、子どもにとつて、その年齢の正月は一生一度である。それを、この厳しい戦下に迎へるのも、なんとといふ意味深いことであらう。その意味深さを思つて、おろそかにしないようにして

やらう。それにしても、この戦下にすく／＼として成長を遂げさせられてゐる幼児らのために、彼ら自らは何も知らない感謝を、深く心にしめながら、方に加へられてゆく、その貴い一歳を祝福してやりたい。

幼児集團疎開について

森 脇 要

恩賜財團大日本母子愛育會の二つの幼児の保育施設即ち戸越保育所と愛育隣保館の集團疎開の計畫が毎日新聞に出てから、私は見學の申込や照會の手紙を澤山貰つた。幼児教育の編輯者からも、この計畫や抱負や趣旨を知らせるようにとの依頼を受けた、しがし事は尙その途中にある。まだやつと先發隊の幼児十四名が、疎開先で生活を始めたばかりであつて、まだ／＼疎開を語るべき時ではないのである。併し敵機の帝都空襲は開始されており、幼児の疎開は一刻を争ふ状態となつておる故に、敢て我々の計畫を幼児教育に関心さられる人々や直接保育擔當の保姆諸君に訴へ、幼児の集團疎開計畫の國家的に取上げ、實踐されん事を、共に協力されん事を願つて、この筆を取つたものである。

我々が戸越保育所の集團疎開を計畫し始めたのは、既にこの五月、東京都で幼稚園或は保育所の休園、或は戦時託児所に切替へ

保育する事の危険が考へられるならば、戦時託児所と言へども早晩休止しなければならぬ時が来るであらうし。而もそれはそれ程遠い將來ではないと我々は考へた。而も戦時託児所の子供は、戦力増強上どうしても家庭より託かる事が必要であるとすれば、戦時託児所全體を安全なところに移して保育しなければならぬと考へた。これが幼児集團疎開の第一の理由である、そして七月一日より戦時託児所として切替へ、再出發しつゝ、も一方疎開の方向に努力を續けた。

第二の理由は戦時託児所と必ずしも限らず一般に幼児を疎開する一つの手段として集團疎開を計畫した。幼児の疎開は私は三つの大きな意味があると思ふ。その一つは誰もが、すぐ氣付く様に、第二の國民たる幼児を敵の空襲から守る事である。次の理由は、幼児を疎開させる事によつて、母親が防空、待避、消火の活動の自由を得て、空襲下の家庭を守る責任を充分果す事である。第三

の理由は、これはあまり今迄説かれない點であるが、幼児を疎開させる事によつて、一人一人の母親や父親が戦争を文字通り自分の戦争と感じて、この戦争を貫徹するために主體的に積極的の層の力をつくす様になる事である。これは子供を疎開させた事のある父親や母親なら直ちに氣付く點である。子供を安全なところに託し、身を自由にして、職場に積極的の努力するとき、そこに自ら必勝の信念が生れて来る。總理大臣の言はれた國民總武裝は、こうした心構へを言ふのであると思ふ。

併し幼児の一般的疎開はそれ程簡單ではない。政府は緣故疎開を説くが、それは既に限度に近い。殘された道は集團疎開以外にはない。それ故どうしても先づ差當りは、大都市の戦時託児所や幼稚園の組織を使つて、これを集團的に疎開させるより他に方法はないと考へた。併し果して幼児の集團疎開は可能であらうか、殆ど凡ての人々は、とても不可能であると言ふ。日本の母親は絶対に子供を離さないといふ。

六月早々我々は保育所の母親達に、「若し保育所が疎開すれば、御子さんを一緒に御出しになりますか」といふ質問を出したところが、三分の二程度の母親から「疎開させます」といふ返事を受取つた。母親達の氣持は、非常に積極的に疎開させたいといふ氣持ではなかつた。併し今迄保育所に通つてから子供がどん／＼よくなつてゐるので、この先生方なら安心して子供をおまかせいたしますといふのである。

母親は必ずしも疎開に賛成ではない。然しこのよい保育所から離れて、又子供が母のゐない間、街頭での生活をくり返す事を考

へると、どうしても疎開させなければならぬと考へたのである。疎開の必要感より子供を離すのではなく、保育所に對する信頼感より子供を離すのである。集團疎開を考へるものゝ注意すべき點であらう。

我々は一般の人々の意見とは反對に集團疎開の可能を信じた。我々が先づ集團疎開を實現する事によつて、その可能を示し、次に同じ道な歩かうとする人々の先達とならうと決心した。

研究所の岡部教養部長の賛成を得、愛育會當局に再三願つた。幸ひ我々の希望は段々と實現し始めた。特に本會の今管理事は、初めよりよく我々の希望を聞いて下さり、積極的のこの目的の實現に努力して下さつた事は、何よりの感謝である。こうして齋藤常務の英斷により疎開保育園費の豫算の實現となり、我々の活動が具體的となつた。

疎開先の決定も大變な仕事であつた。保姆も東奔し西走して疎開先を捜したが、なか／＼見付からなかつた。幸ひ廣瀬隣保館長の御骨折で、埼玉縣南埼玉郡平野村字高蟲に格好な場所を得た。桶川驛より六キロの里程にある寺院を借り受けたのである。

疎開豫算は幼児を大體五十から六十人見當として、五萬四千圓程度である。それ故幼児一人當りとするれば八十圓から九十圓見當を必要とする事になり、集團疎開はなか／＼個人的な施設ではこれを實行する事が困難であり、この點よりは、どうしても國家の大きな援助が願はれるのである。

この幼児の集團の世話は保姆七人、保健婦一人榮養士一人雜役三人で以つて行はれる事が原則になつてゐる。幼児四人或は五人

に一人の割合である。而も幼児の保健に關しては、研究所の保健部の宇留野博士が一週一回出張して、健康管理の責任をとつて呉れる事になつてゐる。

而して今宿理事の創案にもつき疎開先きの人々との融和をはかり、疎開保育園の幼児の生活物資の援助の爲に、平野村の人々を中心として疎開保育園援助會が形成され、物資の買入、斡旋は、専らこの援助會を通じて爲される様になつてゐる。このために、疎開先きの保母が、食糧の爲に、方々をたび廻るといふ事のないようになつてゐる。

疎開保育園の運営に關しては、愛育隣保館と戸越保育所の鈴木、畑谷兩主任保母が合議制で運営して行く事になつてゐる。

以上の様な趣旨や組織で今疎開が行はれてゐる。また修繕の工事は完成してゐないが事情が逼迫したので十一月二十五日に先發隊十五名が出發したのであつたが、その前日たる二十四日に最初の空襲があつた。一日も早く疎開をといふのが凡ての母親の希望となつた。先發隊十五名は豫定の如く出發した。準備が未だ不十分なので保母の苦勞は大變であるが、子供達は實に元氣である。銀杏樹や紅葉の木の紅葉してゐるのを見て、何てきれいなところへ來たんでせうね、よかつたね」と心から喜んでゐる。

疎開が計畫されてから今日まで約六ヶ月かゝつた。その間實に保母達はよく働き、よく工夫し、よくねばつた。この保母達の子達への愛情が遂に、多くの人々を動かして、今日の疎開計畫の實現にまでなつたのである。戸越保育所の畑谷、山田、福光、伊井、森村、隣保館の鈴木、中村、福知の努力は充分賞讃されていゝと

思ふ。

疎開はまだ始つたばかりである。明日は又戸越保育所の幼児二十五名と、隣保館の幼児七名が疎開先きに向つて出發する豫定である。

私が今こゝで考へて見ただけでも既に五指に餘る大きな困難が考へられる。併し私は、今迄多くの困難に耐へて來た保母達の強い意志と創意を知る故に、充分安心してゐる。必ずや凡ての困難を克服して、所期の目的を實現して呉れるであらう。

我々は斷じて戦ひ抜かねばならぬ。老人や乳幼児は斷じて安全な場所に疎開されねばならない。我々は先發隊として出發する。私は多くの後續部隊の續く事を信じ、そして祈つてゐる。保育關係者は十二分の熱意をもつており、保母も又、まれに見る幼児の愛情と幼児管理の能力をもつてゐる。保母達は自分達の疎開への意志の正しい事を信じ自分の能力を十二分に自覺して、所期の目的に向つて突進してほしい。當局者に願ひたい事は幼児疎開の困難性を云々する前に、この日本の保母達の熱情とその能力とに信頼してほしいと思ふ。日本の保母達は實にこの困難な仕事に耐へる事が出来る。我々の保母は母として生れ、戦場の第一線に於て果し得ない奉公の熱情を疎開先きに於て實現しつゝある。我々はずつと保母の能力を信じてよいのではないか、そして又保母自身も自分の能力をもつともつと高く評價する事が大切であると思ふ。

私は、この疎開に際して大きな二つの發見をした。一つは幼児を母親から離して管理する事は一般の期待に反して比較的容易であるといふこと。第二は保母の能力が一般の豫想や、保母自身の

自覺よりもはるかに高いといふことである。我々はもつと、この保母に信頼して仕事を進めるならばこの困難な問題もどん／＼進

凍傷の常識

勝 又 俊 一

凍傷

これからの冬期に幼児學童を苦しめる凍傷の病理と其の豫防法及誰れにも出来る療法とを御參考迄に述べて見たい。特に近年は榮養失調特にヅタミン不足等により本症の發生が非常に多くなつたことは今冬期に向つて一段と注意すべき季節的疾患の一つである。

凍傷發生は原因は兒童の體質により同一寒冷に同時間作用されても同程度の凍傷が起るのではなく、體質に依り著しく凍傷の程度を異にするが大體次の三程度に分けられる。

一、第一度凍傷又は紅斑性凍傷

冷氣が長く作用すると、先づ皮膚の貧血を來すが次で鬱血を來し次第に紫藍色となり、暗紅色に腫脹して來る。之を凍瘡(シモヤケ)と云ふ。これは殊に夜間あたたまると激しい癢痒(カユミ)を來す。

二、第二度凍傷又は水泡性凍傷

これは凍瘡の上に水泡を生じ破れて糜爛面或は潰瘍を形成し、

展させる事の出来る事を信じて疑はない。(十九、十二、一)

(筆者は愛育會研究所員、戸越保育所長)

膿汁を出し或は痂皮を附着する。

三、第三度凍傷又は壞疽性凍傷

これは強度の寒冷が作用し無感覺となり、局所の血行停止を來し暗褐色の壞疽部を生じ幸ひに經過すれば局所脱落を來し時には不幸死に至ることがある。一般には極寒地に居住する者、冬の登山、スキー等に行く時は特に注意すべきことである。

凍傷は手指、足趾、耳翼等に多く發生し、幼児、年少者は大人よりも罹り易く、特に貧血性者、心力弱者、腺病質の者、脚氣になり易き者は特に注意しないと凍傷を起す故に斯様な體質の者は平生より肝油、鐵劑、ヅタミン劑を與へて勉めて強壯ならしめ冬期に向へば、手袋、足袋を用ひて温包し、皮膚は常に乾燥に保つ様注意する。

療法 不幸第一度の凍傷發生したならば家庭療法としては毎日

一—二回局所の温浴を行ふ。時間は一〇分前後特にこの湯を「トウガラシ」を水一升到二本程度入れて煮した湯で行ひ浴湯中能く摩擦するのは頗る有效な方法でこの方法で凍傷を少くとも第二度